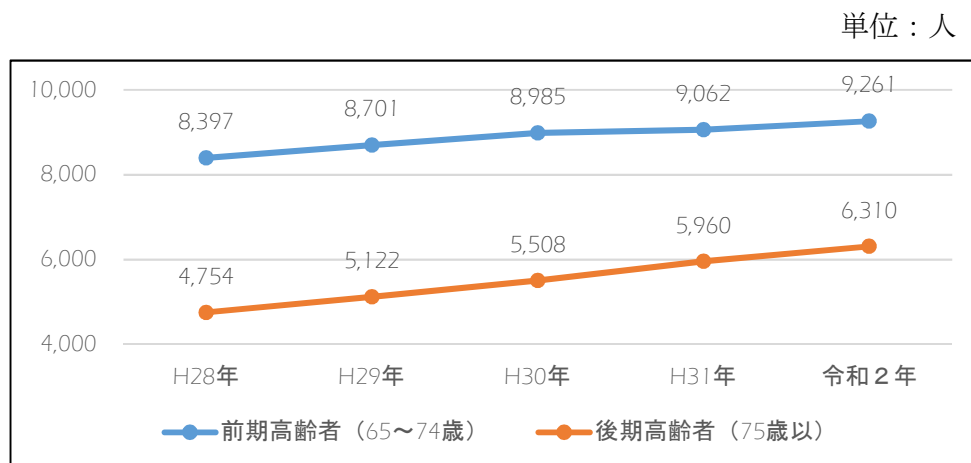


高齢者の現状と今後の推移について

(1) 高齢者の現状

前期高齢者（65～74歳）と後期高齢者（75歳以上）に区分すると、ともに増加が続いていますが、平成28年から令和2年の前期高齢者人口の伸びが約1.1倍となっているのに対し、後期高齢者人口の伸びが約1.3倍と増加速度が上回っています。

図1 前期高齢者数及び後期高齢者数の推移



市内居住地別の高齢化の状況は、図2のとおりです。みずき野地区は高齢化が最も進んでおり、高齢化率は令和2年12月1日時点で47.0%となっています。また、後期高齢者（75歳以上）の割合は、大野地区が14.3%と一番高く、次いでみずき野地区が13.8%、大井沢地区が12.3%となっています（図2）。

今後は、さらに後期高齢者数が増加していくと予測されます（図3）。

図2 地区別の年齢3区分別人口及び高齢化率の状況（R2.12.1現在）

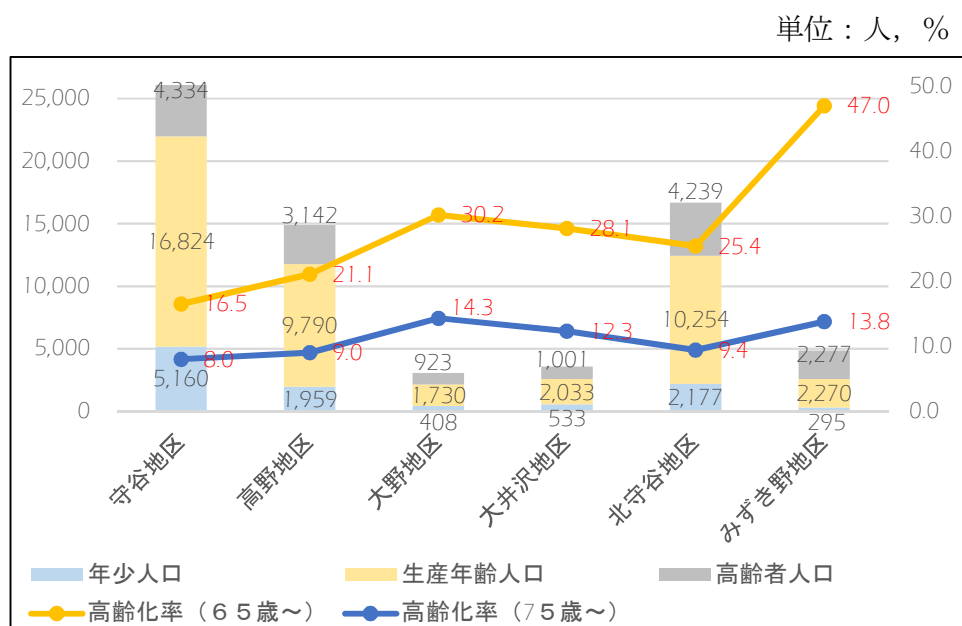
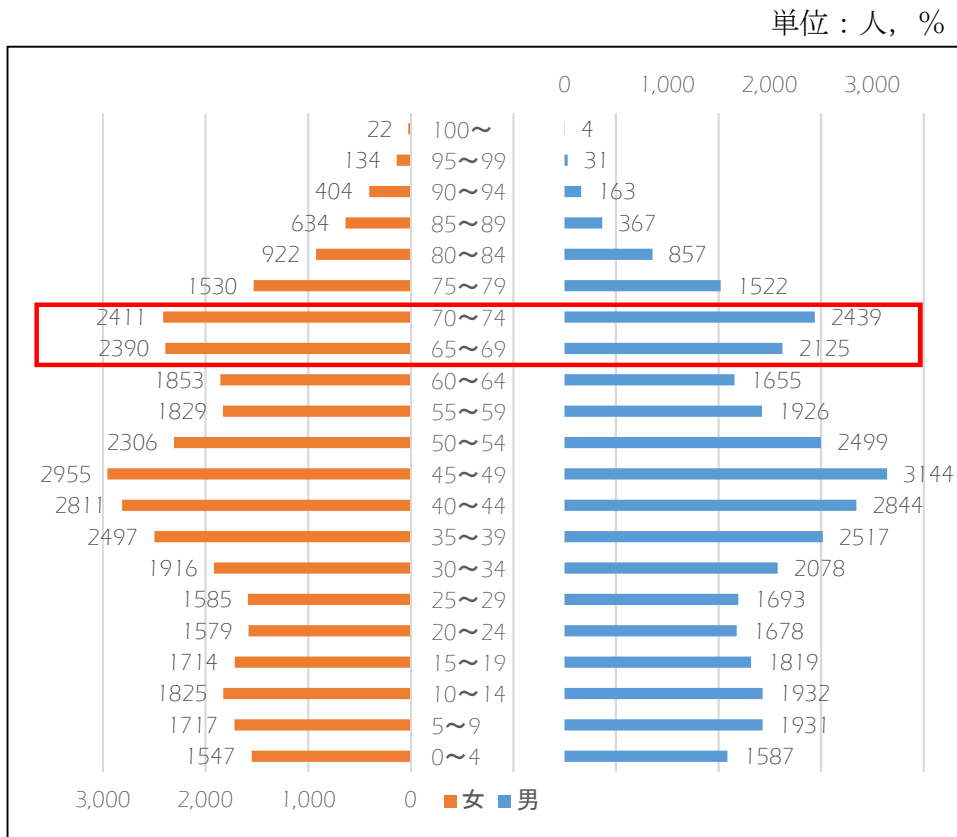


図3 守谷市の人口構成 (R3. 1. 1 現在)



毎年ひとり暮らし高齢者数は増加しており，平成28年度と令和2年度を比較すると，男女ともに増加傾向であり，5年間で約4割増加しています。平均寿命の延びや核家族化などからひとり暮らし高齢者数は，今後も増加していくことが予測されます。

ひとり暮らし高齢者の状況 (65歳以上)

単位：人

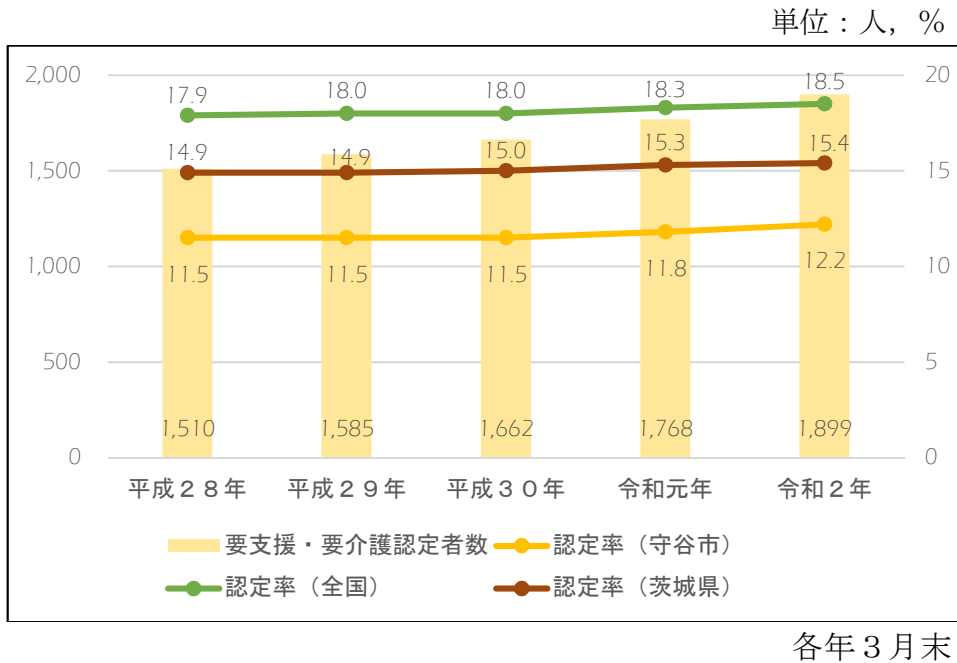
総数	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
男	440	478	560	561	615
女	734	869	972	993	1023
合計	1,174	1,347	1,532	1,554	1,638

各年4月1日現在

守谷市における第1号被保険者(65歳以上)のうち，要支援・要介護認定者数は毎年増加傾向が続いており，令和2年3月末時点で約1,900人となっています。

(図4)。高齢者人口の増加，特に要介護認定者が増加する後期高齢者の増加が見込まれていることから，認定者数も更に増加していくことが予測されています。

図4 要支援・要介護認定者数の状況

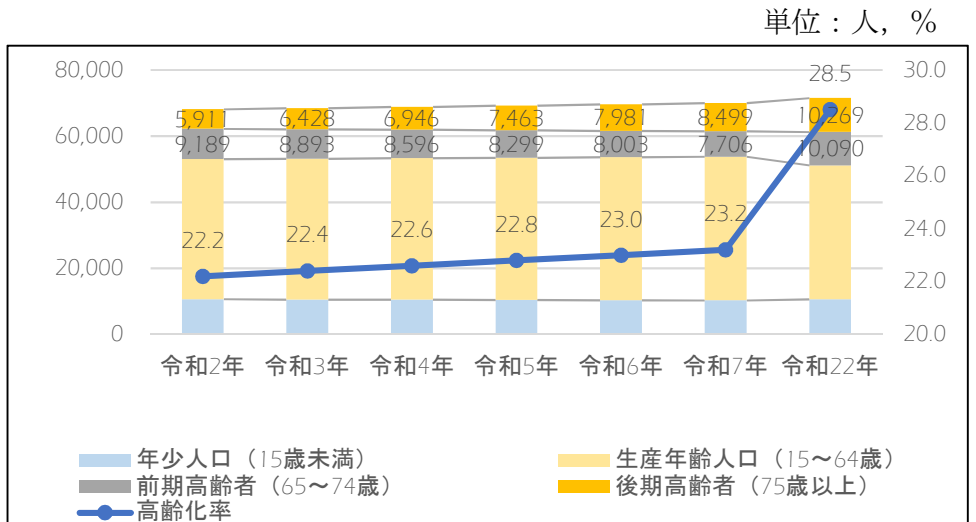


(2) 今後の高齢者人口の推計推移

高齢化率は，上昇傾向が続くことが見込まれ，令和22年(2040年)には28.5%に達すると予測されています。年少人口(15歳未満)及び生産年齢人口(15~64歳)は横ばいで推移するが，令和22年(2040年)になると生産年齢人口は減少に転じる予測です(図5)。令和7(2025)年以降生産年齢人口の減少に伴い，介護従事者の確保も年々困難になってくることも予測されます。

こういったことから，就労をリタイアした後の高齢者の雇用や社会参加としてボランティア活動を推進していく必要があると考えます。また，ひとり暮らし高齢者の増加に伴い，高齢者の問題が顕在化しにくくなるため，地域とのつながりが非常に重要になってきます。

図5 守谷市の人口構成の推移



資料：守谷市人口ビジョン

要支援・要介護認定者数は第1号被保険者（65歳以上）数の増加に伴って、今後も年々増加していくと見込まれます（図6）。また、認定者の増加に伴い、介護サービス給付費が増加し、介護保険料の上昇につながってきます。そのためにも、高齢者自身がいくつになっても自立した生活が継続していくことができるよう、地域での多様な介護予防活動や専門職と連動したサロン活動等を展開し、効果的な介護予防につなげていく必要があります。

図6 第1号被保険者の要支援・要介護認定者数の推移

